

2013年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター 運営委員会会議録〈確定稿〉

- 開催日時：2013年9月10日（火） 午後6時30分～8時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
- 出席委員：五十嵐強、内田日出子、小嶋弘、田中紀子、種村明頼、松尾浩邦、安富眞理子
＜以上7名、敬称略、五十音順＞
- 欠席委員：阿部恵子、岩崎麻里奈、鈴木紗衣、＜以上3名、敬称略、五十音順＞
- 事務局：丸木敦（地域福祉課長）、長山清美（コーディネーター）、篠原保之（係長）

事務局より欠席委員の報告。

1. 報 告 事 項

委員長：今年度第3回目の運営委員会を始める。

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局より、7月～9月の主催事業、ホームページアクセス数、コーディネート状況、9月以降の事業予定について説明を行なう。

事務局：ボランティアはじめて講座修了者の交流会は、参加者が少なかったが、活動の相談をじっくり行った。次年度以降の講座の内容や交流会の持ち方を検討したい。

夏！体験ボランティア西東京2013(以下、夏ボラ)は、参加者が181名(女性147名、男性34名)昨年比25人増となった。増えた人数は市外の方が多かった。ホームページから情報を得た人が多かった。受入事業所が82、活動プログラムは88。高校生の参加が多かった。学校からの課題がきっかけの人も多い。受付終了後の問い合わせもあり、一般相談として受け付けた。受入施設・団体交流会を9月13日に実施予定。

ボランティアのつどい実行委員会を、次年度は6月に田無総合福祉センターで開催する。対象はボランティアをやっていただく大人の方になる。

第2回ボランティアはじめて講座を開催し、8名参加、7名が登録。ボランティア活動の基本について、写真を示して説明する。

ぼらんていあ倶楽部の発送事務について。協力者が少なく作業が遅れてしまった。過去の協力者への連絡を行いたい。

西東京市社会福祉協議会のホームページのリニューアルについて。西東京ボランティア・市民活動センターのホームページも一緒になる。そのため、アクセス数などの集計ができなくなる。7月までの集計では、夏ボラの問い合わせが多かった。

外部事業への参加では、はつらつサロンの夏祭りに参加。ボランティアと一緒に綿菓子づくりで参加した。

福祉系学生の実習生受け入れについて。年明けまで順次受け入れをしている。

相談状況の報告については、相談別の仕分けを変更した。

市内の小中学校からの福祉体験ボランティアの依頼が届いている。

東京ボランティア・市民活動センター拡大センター長会議に委員長が参加予定。

今後の予定。

登録ボランティア向けのスキルアップ講座を2回開催する。

委員：夏ボラについて。毎年、チラシを見ての応募が多いのか。

事務局：チラシは小・中学校の全児童・生徒に配布している。その他は公共施設へ配架をしている。効果的な配布方法を考えなくてはいけない。現在は、チラシ送付の際に、学校に電話を入れて、配布をお願いをしている。

委員長：相談について。NPOに関する相談については、西東京市市民協働推進センターに繋がっているのか。

事務局：件数は少ないが、西東京市市民協働推進センターをご紹介している。

委員：新規ボランティア登録者が昨年より多くなっているが、その要因は分析しているか。

事務局：4月は登録者が多くなる。講座の開催時期に合わせて登録者が変動するが、増加の理由はよくわからない。4月は年度の変わり目で、新たな生活に取り組むためではないか。一昨年は東日本大震災直後で登録者が多かったと思う。

委員：市民まつりに参加しなくなったのはなぜか。

事務局：昨年から参加していない。参加により、綿菓子等の販売は見込めるが、西東京ボランティア・市民活動センターのPRについては、効果がないと考えたため、参加を見合わせている。今後のイベントについては、PR活動の効果を考えて検討したい。

委員長：ホームページが西東京ボランティア・市民活動センター単独から西東京市社会福祉協議会のホームページ内に入れた理由は何か。

事務局：西東京市社会福祉協議会のホームページ内に入ること、福祉というキーワードから訪問者が多くなるのではないかと判断した。これまで通りの検索ワードでも西東京ボランティア・市民活動センターのページに入ることにはできる。デメリットの部分もあると思うが、徐々に対応していきたい。

委員長：西東京市社会福祉協議会との密接な関連の中で効果を期待していると理解した。これまでのような検索数などの調査は難しいかもしれないが、よりよい中身を考えてほしい。迅速性を考えて、新鮮な情報提供を考えてもらいたい。

事務局：更新作業については、これまでと同様に各部署の職員が行うことになる。これまでと違うのは、デザインを統一することで洗練されたものになっていると思う。デザイン性は高まったと思う。

委員長：洗練されたイメージはある。

委員：とても見やすくなった。西東京市社会福祉協議会と西東京ボランティア・市民活動センターが繋がったように思える。

委員長：夏ボラのチラシは西東京市内のみの配布なのか。高校や大学には、どのように配布しているか。また、参加者は市内の人が多いのか。

事務局：依頼があった学校へは、直接チラシを送付している。高校や大学では、学生の住んでいる地域でボランティア活動をしてもらうようにと課題が出されていることが多い。また、友達の住む地域と一緒に活動する他地域の方が多くなっている。大学は、前期試験後の7月下旬から申し込みが多くなるが、受付が終了しているボランティアセンターも多いので、西東京への申し込みが多いと思う。東京ボランティア・市民活動セン

ターでは、都内の全地域の夏ボラの情報をみることができる。

委員：ボランティアのつどいについて。大人を対象にボランティア活動への参加を狙っているとのことだが、定年後の地域活動への参加を考えると「おとぼ(お父さんお帰りなさいパーティー)」などでボランティア活動の案内ができると良いと思った。

委員長：西東京ボランティア・市民活動センターでは、西東京市在住・在学以外の学生のボランティア活動体験を担っていると言っても良いと思う。夏ボラの企画を通じて、西東京市に活動者として参加者を引っ張ってくることはできないか。

事務局：受付時に定期的な活動ができないかお誘いをしたり、小・中学校の児童・生徒の保護者の方向けにボランティア登録や講座の案内を送ってきた。たどれる糸はたどってきたいと考えている。

委員：参加者がいないプログラムはあったのか。どのような内容だったのか。

事務局：参加者がいないプログラムは13ほどあった。例年よりは参加者が散らばったようだった。参加者が多い施設もあるが、その理由は分析していない。

委員：どのような分野の活動先が多かったのか。

事務局：障がい分野や参加条件が厳しかったところは参加者が少なかった。障がい分野は、活動内容が分かりづらかったかもしれない。保育園は最低参加日数や年齢制限など、参加条件によっては参加者の少ないところがあった。また、駅の近くの施設の人気が高かった。参加者の卒園施設での活動希望も多い。

委員：申込み状況を見ていると途中で受け付けが終了するところもあったようだが詳しく教えてほしい。

事務局：各施設で受入の終了時期が違っている。受入人数の上限も各施設で違っているため、期間中でも受付を終了したところがあった。

委員：昨年からのリピーターが多いことは貴重だと思う。

事務局：数年参加の方は多くなっている。

委員：活動先の様子を知っていることは大きな意味があると思う。

委員：施設での対応も違ってくると思う。今後も活動に参加しようと思ってもらうには、担当者からの言葉かけも大きな要因になると思う。

2. 審 議 事 項

(1). 2013 年度第 2 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿) について

一部、資料の訂正を行い、2013 年度第 2 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>について、<確定稿>にすることを確認する。

3. 協 議 事 項

(1). 2014 年度事業について

事務局：2014年度事業の方針について協議をお願いしたい。2013年度事業の経過を報告の上、進めていきたい。

〈広報活動〉

ぼらんていあ倶楽部については、2か月に1度の発行を継続する。各活動団体への取材については、ボランティアから直接話を聞く機会を増やしていきたい。また、「登録ボランティアになりませんか」キャンペーンを、年間を通して進めていきたい。

メールニュースについては、購読者の増加につながるような取り組みを行いたい。

〈研修・講習会〉

夏ボラについては、早めの事務作業ができるよう進めていきたい。受入条件の決定に参加者がボランティア登録につながるような取り組みを進めたい。コーディネーター研修を受入施設・団体説明会開催時に行ったが、参加する団体を増やしていきたい。

〈懇談会〉

活動分野の違う方が話し合う機会として継続したい。

ボランティアのつどいについて。

ボランティア活動の魅力を伝えていきたい。実際にやってみようという大人をターゲットにしていきたい。会場については、西東京ボランティア・市民活動センターがある田無総合福祉センターを設定した。センターからの情報発信を行ないたい。

〈スキルアップ研修〉

次年度も計画したい。他のボランティアグループの活動の動きを見てみる企画を考えたい。

〈ボランティアはじめて講座〉

今年度2回実施したが、参加者が少なかった。参加者の増加につながるような企画を考えたい。コミュニケーションについてなど、興味を持ってもらえるような講座から、参加者にボランティア登録を促したい。また、体験をセットにした講座も検討したい。一緒に活動をすると仲間意識も持てると思う。1日講座の方が参加者が多かったが、数日にわたる体験をセットにした講座も検討したい。

〈ネットワークづくり〉

ボランティア団体の連携のあり方を探り、課題を見つけていきたい。ボランティアのつどいの中でできることもあると思う。

〈軒下ふれあいバザー〉

継続して実施したい。

〈学校でのボランティア活動〉

参加するボランティアの固定化が課題となっている。新たなボランティアの発掘に努めたい。

〈活動者などへの訪問PR活動〉

職員が公民館等に出向いて行って、ボランティア参加について説明していく機会を作りたい。特技の披露につながる各種サークルの活動者に対し、日頃の活動の発表の場として、施設での特技披露のボランティア活動を働きかけたい。

〈イベントでの働きかけ〉

西東京市社会福祉協議会の他の事業で、活動中の方への働きかけを進めたい。西東京ボランティア・市民活動センターとボランティア、地域の方とを繋いでいきたい。

<人材育成>

西東京市社会福祉協議会全体で取り組む課題と考えている。

委員長：2013年度の事業説明は現在継続中のもの。2014年度の計画は、2013年度の活動を踏まえて進めていきたいとのことだが、意見をいただきたい。

委員：夏ボラの参加者へぼらんていあ倶楽部は送っているのか。また、2014年度の取り組み時期を早めるとのことだが、2014年度の受付についての案内をしているのか。

事務局：2013年度は9月号を送っている。また、講座案内も送っている。しかし、1年間の継続は予定していない。夏ボラの参加者には、「ボランティアのつどい」へのボランティア参加の呼びかけは行っている。早期の取り組みについては、受け入れ施設・団体に対するものと考えている。

委員：取り組み時期を早めるということは、受付時期も早めるのか。

事務局：準備を早めるということで受付時期は例年通りと考えている。受入先の都合もあるので、可能な限りと考えている。

委員長：受付時期は早める必要はないと思う。他地域からくる方も受け入れを続けると良い。

事務局：受付期間については、今まで通りで良いかと思う。事務的にゆとりができれば、学校へ訪問してのチラシ配布等を行ないたい。数年前には、学校を訪問してチラシを配っていた。

委員：ボランティア懇談会は個人の交流の場だと思うが、内容はどのようなものか。

事務局：テーマはいくつか出し、意見交換をして頂き交流を行なうものと考えている。

委員：「登録ボランティアになりませんか」キャンペーンについて。非常に良いと思う。今回のぼらんていあ倶楽部のように、発行したら同じものを一定の期間配ると良い。以前、ボランティアのつどいの時に、リタイアするちょっと前くらいの年代の方が来た。その後活動時に見学に来てくれた。紙飛行機作りがボランティア活動につながるのかと驚かれたが、ボランティア活動を狭い範囲で考えている方は多いと思う。見学者がそのまま活動に参加したが、とても楽しまれていた。ちょっとしたことでもボランティアになるんだという内容で良いかと思う。自分の気持ちさえあればできるんだというものを作っても良いと思う。継続して案内を発行すべきだと思う。

委員長：ぼらんていあ倶楽部の中で、前の運営委員会で話されたことを実施していただいたと思う。「登録ボランティア」という言葉を大事にしてほしい。「登録ボランティア」ってこういうものだとして明確にすることを進めてほしい。登録ボランティア証を発行しても良いかと思う。「ボランティア登録」なのか「登録ボランティア」かを明確にすると良い。言葉を統一し、それがどんなものかをはっきりさせていく。「登録ボランティア」が何をするのか、また、活動内容ももっと具体的に書いても良い。例えば、「高齢者・障がい者が相手」というのは活動先が施設のみなのか 受け皿があるかどうかなど、表記したら良い。そして「登録ボランティア」の組織化をしたらと良いと思う。西東京市市民協働推進センターとの違いを考えると、西東京ボランティア・市民活動センターは「登録ボランティア」の集まりで良いと思う。「登録ボランティア」の存在が西東京ボランティア・市民活動センターを支えている。そして、「登録ボランティア」の

差別化を進めると良いと思う。活動紹介や会員証の発行、スキルアップ研修の参加など、優先権を持てるようにしたらどうか。

事務局：5年前に全戸配布をしたパンフレットをお渡しした。こんなこともボランティア活動になるんだと紹介している。

委員長：材料は自分のところにある。作った資料を何回も使ってみても良い。

事務局：反響はとても良かった。

委員：同じもので良いと思う。続けることで反響がある。

委員：その時は、特別な予算があって作ったのか。

事務局：西東京ボランティア・市民活動センターを周知しなくてはいけないということで、5年前に新しく作った。それほどお金はかかっていない。

委員：作成にはお金が絡む。同じようなものを作っても良いと思う。

委員：ボランティアはじめて講座について。内容によるボランティアの定着率に変化があるのか。

事務局：参加した方の年齢層によると思う。登録後の継続期間については、核で残っていただけの方がいると心強いが、講座の内容による差があるとは思えない。講座の中で現場を見ることができれば、違う感覚も出るのではないかと思う。

委員長：「おとぼ（おとうさんお帰りなさいパーティー）」や「NPO市民フェスティバル」などに参加して、参加者に働きかけてはどうか。家に引きこもっている人を外に出し、ボランティア活動に参加してもらうことを考えて、ボランティア登録を受け付けるという案内をしても良いかもしれない。

委員：「登録ボランティア」になりませんかというのと、敷居が高くなるような気がする。ホームページでもかなりの人が「ボランティア活動がしたい」とページを開いている。その人が新規で登録できないことはもったいないと思う。できればホームページの中でボランティア登録ができるシステムがあると良いと思う。ダイレクトに進めることは大切だと思う。

委員：「登録ボランティア」になって、ボランティア同士が自由に交流できると良いと思う。登録したら気楽に交流できる場があると良い。仲間がいると良い。初めは難しいが、活動も楽しくなる。

委員：登録している人の7割が女性。男性は65歳くらいから参加すると思うが、地縁がある女性とは違いなかなか活動に参加することができない。若い男性を引き込む手法を考えたい。西東京ボランティア・市民活動センターでも、65歳くらいの人を対象に「お帰りなさいパーティー」などを検討しても良いと思う。

委員長：高齢化が進んでいる。自らのために自分たちが自分たちを支える社会づくりが必要だと思う。

委員：地域社会に出ることで自立する生活を進めることになる。

事務局：2015年度に介護保険法改正がある。要支援1・2の人たちが介護保険の対象外になる。ボランティア活動への参加などで、その予防につながると考えている。要支援の人の受け皿をどれだけ用意していけるのかが大事になる。

委員長：ボランティア活動は幅が広い。ターゲットを明確にして働きかけていかななくてはいけない。高齢者の関係は近々の課題だと思う。

委員長：ぼらんていあ倶楽部の発送作業について。参加者が少ないとのことだが、活動場所の雰囲気はどのようになっているのか。作業の中身も単純作業ではいけない。活動に興味がないといけない。参加者が増える工夫を考えてほしい。

事務局：単純作業になっていると思う。参加者が多いといろいろな会話を通じて活動も広がると思う。声掛けをしていこうと思っている。

委員：4月から委員会に参加してきたが、西東京市全体のボランティアに関する方向性が分からなかった。方向性をどこに持つのか。「登録ボランティア」なのか「ボランティア登録」については、質の担保なら「登録ボランティア」だし、人数を増やしていこうというなら「ボランティア登録」になると思う。そして、具体的な取り組みも決まってくると思う。これまでは、質の担保と数の確保の両方が混ざっていたかと思う。

事務局：運営委員会の役割として、両面があると思う。委員の皆さんの意見をいただき、職員が実施する。それをまた検討して評価をいただくことになる。いろいろなアイデアをいただくことを期待して運営委員会を設置している。ボランティア事業に関する方向性は、この委員会の中で固めていただき、それを事業化することになる。

委員：西東京市の方針、課の方針もあると思う。高齢福祉の問題と合わせて考えてもらいたい。

事務局：一番の課題は、圧倒的にボランティアの数が少ないことになる。西東京ボランティア・市民活動センターが関わっていく活動に参加するボランティアの数が少ない。そこを改善をして、次に質の問題になると思う。同時並行もあると思う。

委員：質の確保と量の確保の両方があった方が良くと思う。

委員：ボランティアが少ないとのことだが、何人いたら良いという数字があるのか。

事務局：多ければ多いほど良いが、登録の550人すべてが、活動をしているかと言えば、常時活動できる人は3割いるかいないかだと思う。実際に活動者が見つからなくて断るケースもある。ボランティアが増えれば、そのようなことがなくなると思う。

委員：現在活動していない人の掘り起こしが必要。登録が多いのは心強い。より多く登録してもらおうという目標で良いと思う。

事務局：毎年何人の新規ボランティアを増やすという目標ではなく、過去には、前年の登録者数の1割を増やすなどの目標を持ってきた。何人だったら良いのか、西東京市であればどのくらいという数値が出せればより良いと思う。

委員：目標値について。簡単な目標数値ではなく、どの分野がもう少し数がほしいとか、この分野は質の担保をなど、目標を絞って検討していく方が良くと思う。

委員：数値はどの活動をするのに何人必要かが出れば良いと思う。人を集めるために、何人集めようという目標なら良い。何人必要という目標は難しい。

委員：質と量。両方を見ながら市民がボランティア意識を持つことが必要になる。

事務局：西東京市の中で、ボランティア活動が活発に行われていると感じている人が、どのくらいいるのかわからない。

委員：登録していなくてもボランティア活動をしている人はいる。

事務局：西東京ボランティア・市民活動センターがすべてのボランティア活動を把握することはありません。西東京ボランティア・市民活動センターに入ってくるニーズに応じてくれる方がどのくらいいるかが問題となる。

委員：登録していないけど活動している人はいる。そういう方も登録してくれると良い。

委員：ささえあい協力員などは800人いる。その人が登録ボランティアになれば良いのだが状況が良くわからない。

事務局：「登録ボランティアになろう」とは逆行するが、西東京ボランティア・市民活動センターが、いろいろな人と繋がっていないということだと思う。西東京ボランティア・市民活動センターが、連絡できる場所を知っていれば、困ったときに声をかけられる。登録していない人を資源として把握していないからボランティアが少ないと感じているかもしれない。

委員：こちらから出向いて説明して、思いを広めていけるようにしてほしい。青少年育成会のボランティアと西東京ボランティア・市民活動センターのボランティアがなぜ繋がらないのか。個人の登録ボランティアを増やすというだけでは広がっていかないような気がする。広報紙などを全戸配布したら良いと思う。ぼらんていあ倶楽部は、なかなか手に入らない。どこかに行かないと目に触れない。次年度の活動として、様々なところと繋がって推進することが大切だと思う。青少年育成会活動の合間なら活動できると思う方はいると思うが、新たな活動には登録する勇気がないという人もいると思う。他の団体に所属しているからボランティアをやらないという人でだけではないと思うので、繋がりを持ってほしい。

事務局：PRするだけでなく、どのような関係性を築いていくかが大切だと思う。

委員：人数も増やして活動量が増えていけば良いと思う。ボランティア活動に対する意識づけは、ボランティア自身の中身をレベルアップしていかないといけない。

委員長：運営委員会の在り方、西東京ボランティア・市民活動センターの位置づけについて、考えた方が良いかもしれない。基本的には、西東京ボランティア・市民活動センターが、様々な問題に対してこれからどう関わっていくのか、そういう議論をすすめる議事設定をしても良いかもしれない。

これで本日の協議を終了したい。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

日 時：2013年11月12日（火）18:30～20:30

会 場：田無総合福祉センター 4階第3会議室

以上をもって、2013年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し散会する。